

第4回選定委員会議事録

令和6年7月24日(水)

【社会（地理的分野）】

◇委員長 地理的分野の調査研究報告をお願いします。

◇調査員 東京書籍の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特に特徴といえるものや、良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑦

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点と第5の観点である。

教育出版について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑦

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

帝国書院について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑦

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点、第2の観点、第4の観点である。

日本文教出版について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑦

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点と第3の観点である。

以上のような調査結果を踏まえ、優れていると考えられる3社、東京書籍、帝国書院、日本文教出版について説明する。

東京書籍について説明する。この教科書では特に、第1の観点、第5の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。教科書10ページと11ページ。見開きごとに、タイトルと、生徒の興味を引く副題を示し、「どのように」「どのような」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「地球の姿を見てみよう」、副題は「陸地と海はどちらが広い?」、学習課題は「大陸と海洋は、どのように分布しているのでしょうか。また、世界はどのように区分することが

できるでしょうか。」である。このような構成により、生徒は、興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、学習の結果、何を理解すればよいかが明確になっている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」を設け、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第5の観点「内容の表現、表記」について。10ページと11ページ。本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の背景は白色、見開き左右の資料の部分の背景に着色をしている。このような工夫により、本文を読む時は本文に、資料を読み取る時は資料に集中することができる。また、円グラフや帯グラフには文字や数字を入れる、複数のデータを掲載した折れ線グラフは、データの色を変えるなど、生徒の能力等に係わらず、誰であっても分かりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。

帝国書院について説明する。この教科書では特に、第1の観点、第2の観点、第4の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。教科書の2ページと3ページ。見開きごとに、タイトルと、「どのような「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「私たちの住む地球を眺めて」、学習課題は「地球上の大陸と大洋はどのように分布しているのだろうか。また、世界はどのように区分することができるのだろうか。」である。また、加えて、章全体を通して考えていく問いも掲載している。この見開きでは「世界にはどのような国があり、その位置を表すにはどのような方法があるのだろうか。」とあり、生徒は、この見開きの学習に関わる問いだけでなく、第1章全体の学習を通して、どんな知識や技能を習得すればよいかを明確に理解した上で、学びを進めることができるようになっている。また、右ページ下部の「確認しよう」「説明しよう」で、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第2の観点「思考力、判断力、表現力等の育成」について。巻頭8ページ。このページでは、地理的分野の学習を始めるにあたって、「地理的な見方・考え方」として「位置や分布」「場所」「人間と自然の関わり」「他地域との結びつき」「地域の特徴」の5つが、あらかじめ、紹介されている。また、この「地理的な見方・考え方」は、13ページに見られるように、章の振り返りのページ、150ページに見られるように、特設ページ「アクティブ地理AL」にも記載され、それぞれの問いに対して考える際、何を意識して考えればよいかの手がかりとし、より深い思考に結びつけることができるようになっている。

第4の観点「内容の構成、配列、分量」について。巻頭1ページから巻頭9ページまで、この教科書の活用方法等を10ページにわたって掲載している。巻頭8ペー

ジでは、先ほども説明した「地理的な見方・考え方」を紹介している。また、巻頭9ページには、考えを整理する方法として、「マトリクス」「ベン図」「ウェビング」「ステップチャート」の4種類の思考ツールが示されており、思考をする場面で、課題に対応したツールを活用し、効率的かつ深く考えていくことができるようになっている。

日本文教出版について取り上げる。この教科書では特に、第1の観点、第3の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。教科書4ページと5ページ。見開きごとに、タイトルと、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「地球の姿を眺めよう」、学習課題は「地球上で、大陸や海洋はどのように広がっているのでしょうか。」である。また、この教科書では、学習課題の下に、「見方・考え方」を記載している。このページでの「見方・考え方」は「位置や分布」であり、「大陸や海洋の広がりの方すの違いに着目しましょう。」と説明が書かれている。「見方・考え方」が示されていることで、どういった点に着目して学習をしていけばよいか分かり、生徒の深い学びにつながる。また、右ページ下部の「確認」「表現」で、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。教科書282ページと283ページ。この教科書では、単元の導入で、「学習の内容」「章を通しての問い」「学習の流れ」として「考察・構想する、テーマを決める」「課題の解決策を考察する」「情報を集めて構想する」「構想した内容を整理してまとめる」「構想した内容を発信する」、そして「見方・考え方」と「小学校で学習した内容」を記載され、次のページ以降で具体的な例を示している。このように学び方のポイントが具体的に示されることで、生徒は、より主体的に探究的な学習活動に臨むことができるようになっている。

以上で地理的分野の教科書の説明を終わる。

◇委員長 委員から質問はあるか。

第1の観点。「どのような」「どのように」が3社ともある。例えば、「チェック」などのねらいは何か。基礎・基本の定着や、より深い理解に導くためのものか。「説明しよう」はより高度である。

◇委員 3社表現は違うが、「チェック」などは基礎・基本の確認、「説明しよう」などは、より深い学びにつながるものである。各社大きな違いは無いと考える。

◇委員長 帝国書院。思考力を育てる部分に特徴があるように思える。各社、思考ツールなど、思考力を鍛える工夫はあるか。

- ◇委員 各社とも思考力を鍛えようとする工夫が見られる。どの教科書会社とも思考ツールがある。帝国書院は、教科書冒頭に例示し、授業構成の工夫が図れると考える。
- ◇委員 実際の授業の中で使うのか。
- ◇調査員 多くの授業者が使う。巻頭ページに戻って説明することができる。
- ◇委員長 授業におけるICT活用の場面で、こういった思考ツールを使えるか。そういった工夫はあるか。
- ◇調査員 帝国書院の二次元コードを読み取ると、思考ツールやワークシートが出てくるようになっており、授業で使えると考える。
- ◇委員 第1の観点。尾道の子供たちの学力を考えた場合、どの会社の文言が相応しいか。
- ◇調査員 一概にこの教科書が良いとは答えにくい。
- ◇委員長 ただいまの選定委員からの質問は、どの会社の学習課題が、実際に子供の思考をより促すかという意図でなされたものである。
- ◇委員 帝国書院のものが、しっかり考えさせる問いになっている印象である。
- ◇委員 第1の観点②、領土を巡る記載について。どの社も平等な扱いであるという捉えで良いか。
- ◇調査員 A3版。ここに領土についての記載を示している。各社とも見開きで書かれており、同様の扱いであると考えている。

【社会（歴史的分野）】

- ◇委員長 歴史的分野をお願いします。
- ◇調査員 東京書籍の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特に特徴といえるものや、良いと考えられる番号を読み上げる。
 第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥
 第4の観点⑧、第5の観点⑩
 特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点、第2の観点、第5の観点である。
 教育出版について。
 第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥
 第4の観点⑧、第5の観点⑩
 特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点と第5の観点である。
 帝国書院について。
 第1の観点①、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第2の観点と第3の観点である。

山川出版社について。

第1の観点①、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

日本文教出版について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

自由社について。

第1の観点②、第2の観点⑤、第3の観点⑦

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

育鵬社について。

第1の観点②、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

令和書籍について。

第1の観点②、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

以上のような調査結果を踏まえ、優れていると考えられる特徴ある3社、東京書籍、教育出版、帝国書院について説明する。

東京書籍について説明する。この教科書では特に、第1の観点、第2の観点、第5の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。地理的分野と同様の説明になる。教科書42ページと43ページ。見開きごとに、タイトルと、生徒の興味を引く副題を示し、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「聖徳太子の政治改革」、副題は「中国や朝鮮に学びながらの国づくり」、学習課題は「蘇我氏や聖徳太子は、どのような国づくりを目指したのでしょうか。」である。このような構成により、生徒は、興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、学習の結果、何を理解すればよいか明瞭にな

っている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」を設け、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第2の観点「思考力、判断力、表現力等の育成」について。10ページから15ページ。これらのページでは、「歴史的な見方・考え方」について学ぶ。10ページには「時期や年代」をとらえること、12ページには歴史の流れである「推移」、14ページには別の物事との「比較」、出来事の「相互の関連」、「現代とのつながり」を考えることが紹介されている。これらの「見方・考え方」は、例えば196ページの下部に「現在」のマークとともに「本文に登場するメディアは、現在の私たちの生活にどう関わっているか調べましょう」との問いに生かされている。また142ページの章のまとめで「推移・比較・関連」の「見方・考え方」に基づいて考える課題が示されており、それぞれの課題について考える際、何に注目するとよいか考えながら学習を進め、かつ、より深く考えることができるようになっている。

第5の観点「内容の表現、表記」について。160ページから161ページ。本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の背景は白、見開き左右の資料の部分の背景に着色している。このような工夫により、本文を読む時は本文に、資料等を読み取る時は資料に集中することができる。また、円グラフや帯グラフには文字や数字を入れる、複数のデータを掲載した折れ線グラフは、データの色を変えるなど、生徒の能力等の違いにかかわらず、誰であっても分かりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。

教育出版について説明する。この教科書では特に、第1の観点、第5の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。東京書籍とほぼ同様の説明となる。教科書40ページと41ページ。見開きごとに、生徒の興味をひくタイトルと、副題、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「あつく三宝を敬え」、副題は「聖徳太子の政治と飛鳥文化」、学習課題は「東アジアの動きの中で、大和政権はどのような国づくりを目指したでしょうか。」である。このような構成により、生徒は、興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、学習の結果、何を理解すればよいかが明確になっている。また、右ページ下部に「確認」「表現」を設け、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第5の観点「内容の表現、表記」について。この観点も東京書籍と同様の説明となる。228ページから229ページ。本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の背景は白、見開き左右の資料の部分の背景に着色している。このような工夫に

より、本文を読む時は本文に、資料等を読み取る時は資料に集中することができる。また、円グラフや帯グラフには、文字や数字を入れる、複数のデータを掲載した折れ線グラフは、データごとに色を変えるなど、生徒の能力等の違いにかかわらず、誰でも分りやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっている。

帝国書院について説明する。この教科書では特に、第2の観点と第3の観点を取り上げる。

第2の観点「思考力、判断力、表現力等の育成」について。102ページ、103ページ。このページは、章のまとめを行うページとなっている。この章では、3章の問いに対して、自分の考えを文章でまとめることで、学習のまとめとしている。その際、102ページの右下にあるように、1節から3節まで、各節の問いが改めて示してあり、再度、これまでの学習を振り返ることができること、103ページにあるように、章の導入ですでに学習している「タイムトラベル」について再び振り返ることで、これまでに学んだ知識を統合しながら、まとめをすることができるようになっている。

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。105ページ。近世についての導入のページ。冒頭、この章を通しての問い「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。」に加え、ページ右下に、この章で学習する節の問いを節ごとにあらかじめ示し、この章で何を学ぶのか分かるようにしている。また、114ページ、115ページ。「タイムトラベル」と称して、その時代の特徴が分かるイラストと問いを掲載し、この時代の大まかな特徴を予想させ、見通しをもって学習できるよう工夫を行っている。

以上で歴史的分野の教科書の説明を終わる。

- ◇委員長 帝国書院の第1の観点について。地理的分野と同様の作りながら、優れている特徴とされていないのはなぜか。
- ◇調査員 「タイムトラベル」、節の表し方が特徴である。東京書籍や教育出版には副題が付いており、それが生徒にとって良いと考えた。
- ◇委員長 地理的分野でも、帝国書院に副題は無いか。
- ◇調査員 そうである。
- ◇委員長 課題設定の表現を比べるとどうか。
- ◇調査員 東京書籍、教育出版、帝国書院の聖徳太子を扱うページ。シンプルだが、その時代の特徴を説明するようなものになっている。
- ◇委員長 課題そのものの示し方はどうか。
- ◇調査員 聖徳太子のページ。東京書籍と帝国書院がほぼ同じ表現である。より深く考えるな

ら、教育出版である。時代を大きく捉えるなら、東京書籍と帝国書院である。

◇委員長 「聖徳太子」「蘇我氏」など、焦点を絞ってある方が子供たちは考えやすいか。

◇調査員 シンプルな方が子供たちは考えやすい。

◇委員長 現代史でその例を示してもらえるか。

◇調査員 では、独立について。東京書籍、背景と影響について。教育出版、経緯について。帝国書院、影響についてが色濃く出ている。

◇委員長 より深くという視点では、東京書籍、あるいは、帝国書院となる。

◇調査員 そうである。

◇委員長 東京書籍の課題が子供にとって考えやすいと感じた。歴史は、知識として覚えるだけでなく、その背景や影響を考えるということを意識させるのが良いと考える。どうか。

◇調査員 そうである。

◇委員長 子供の内部に問いが立たないと、主体的な学習活動が始まらない。そういう意味では東京書籍の表現が相応しいと感じた。

◇委員 年表の表記の仕方。縦と横では、どちらが分かりやすいか。また、提示する資料に特徴があったのか。

◇調査員 年表の表記については比較を行っていない。資料は重要である。しかし、全ての資料を見比べるところまでは行っていない。

◇委員長 複数の資料を活用して課題を考えることについて、どの社がより工夫されていたか。

◇調査員 3社とも遜色ないと考える。

◇委員長 図や表はどうか。複数の資料を活用して課題を解決することは大切と考えている。そこに力を入れている会社はどこか。

◇調査員 どの会社も工夫はしている。

◇委員長 3社の歴史観について、特色があればお願いします。特に現代史。

◇調査員 3社の歴史観の比較は行っていない。A3版。3社は大きな違いはない。

◇委員長 ご見解は承知した。

◇委員 教育出版。「独裁者」という題名が付いている。特徴的であると思うが、どうか。

◇調査員 特徴的な言葉で、子供を引き付けやすいのは確かである。

◇委員 第3の観点。帝国書院の「タイムトラベル」は工夫と考える。他社にもこのような工夫はあるか。

◇調査員 東京書籍、教育出版それぞれ該当している。帝国書院はデフォルメされているので、子供たちがより考えやすいと考える。

◇委員長 事実そのものが学習対象である社会科の特性から言って、イラストなどで事実がデ

フォルメされて良いのかと思うが、いかがか。

◇調査員 特徴が詰まっているという意味である。

◇委員 こうしたイラストは、意欲を喚起させる1つの工夫であるとは考えられる。

【社会（公民的分野）】

◇委員長 公民的分野をお願いします。

◇調査員 東京書籍の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特に特徴といえるものや、良いと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点①、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑨、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点、第2の観点、第4の観点である。

教育出版について。

第1の観点①、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑨、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点と第3の観点である。

帝国書院について。

第1の観点①、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑨、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

日本文教出版について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑨、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点と第3の観点である。

自由社について。

第1の観点③、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑨、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

育鵬社について。

第1の観点③、第2の観点⑤、第3の観点⑥

第4の観点⑨、第5の観点⑪

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

以上のような調査結果を踏まえ、優れていると考えられる特徴ある3社、東京書籍、教育出版、日本文教出版について説明する。

東京書籍について説明する。この教科書では特に、第1の観点、第2の観点、第4の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。地理的分野、歴史的分野と同様の説明となる。教科書112ページと113ページ。見開きごとに、タイトルと、生徒の興味を引く副題を示し、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「地方自治の考え方と役割」、副題は「国と地域の役割分担」、学習課題は「地方自治はどのような考えに基づいて行われているのでしょうか。」である。このような構成により、生徒は、興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、学習の結果、何を理解すればよいか明確になっている。また、ページ下部に「チェック」「トライ」を設け、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第2の観点「思考力、判断力、表現力等の育成」について。176ページから179ページ。このページは、単元末のまとめのページである。176ページの「確かめよう」、177ページの「ふり返ろう」により段階的に学習を振り返った後、178ページの「深めよう」で、コンビニエンスストアの出店したい場所について、複数の資料を活用しながら、多面的・多角的に考えることとなっている。その際、思考ツールである「Yチャート」「ダイヤモンドランキング」が紹介されており、効率的かつ深く考えることができるように工夫されている。他の章のまとめを含めると、「ウェビング(P33)」「マトリックス(P33)」「ピラミッドストラクチャ(P71)」などの思考ツールが紹介されている。

第4の観点「内容の構成、配列、分量」について。90ページ。「18歳へのステップ」という特設ページである。「18歳」という表現をとることで、3年後には有権者となることが意識づけられる。また、124ページから125ページ。このページは先ほども紹介した、「深めよう」のコーナーですが、「S市の議員になって条例を作ろう」と、生徒たちが将来、社会参画することを前提とした課題が示されている。こうした課題について考えることにより、生徒の社会参画意識が醸成されるものと考えられる。

教育出版について説明する。この教科書では特に、第1の観点と、第3の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。東京書籍とほぼ同じ説明になる。教科書116ページと117ページ。見開きごとに、生徒の興味を引くタイトルと、

副題を示し、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「地方自治ってなんだろう」、副題は「身近な地域の政治」、学習課題は「身近な地域の政治は、どのようなしくみで行われるのでしょうか。」である。このような構成により、生徒は、興味をもって学習に臨むことができるようになるとともに、学習の結果、何を理解していればよいかも明確になっている。また、右ページ下に「確認」「表現」を設け、学習課題に対して、理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。129ページから131ページ。単元の導入における工夫である。129ページでは、いくつかの写真で経済の学習への興味を持たせた後、次のページで、この単元に関わる課題について考えさせている。この活動を通して、生徒は、章全体を通しての問い「私たちの暮らしにおいて、経済活動はどのような意味があるのだろうか。」を考えていくことができるようになっている。またこの活動を通して、経済について考えていく際に必要な「見方・考え方」、この章では、ページ右下に書かれている「対立と合意」「効率と公正」「分業と交換」「希少性」について理解できるようになっている。

日本文教出版について説明する。この教科書では、第1の観点と第3の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。地理的分野での説明と同様の説明となる。教科書114ページと115ページ。見開きごとに、タイトルと、「どのような」「どのように」といった学習課題を示している。この見開きでは、タイトルは「私たちの暮らしと地方自治」、学習課題は「地方自治とはどのようなものでしょうか。なぜ必要とされるのでしょうか。」である。また、この教科書では、学習課題の下に、「見方・考え方」を記載している。このページでの「見方・考え方」は「個人の尊重」「民主主義」であり、説明が加えられている。「見方・考え方」が示されていることで、どういった点に着目して学習をしていけばよいか分かり、生徒の深い学びにつながる。また、学習課題については、右ページ下部の「確認」「表現」で理解できているかどうか、確認できるようになっている。

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。128ページから129ページ。このページは章の導入のページである。経済で学習する内容の多くを含む、ハンバーガーショップについての8コマ漫画を掲載しており、生徒が興味をもって、学習内容を大まかにつかむことができる工夫がなされている。また、右ページ下で、章の問い、各節の問いを示し、この章で何を学ばよいか、学習の見通しをもって、単元の授業に臨むことができるようになっている。

東京書籍、教育出版については、歴史的分野でも説明した、ユニバーサルデザイン

に配慮したレイアウトは、公民的分野の教科書においても、取り入れられているので、申し上げておく。

以上で公民的分野の教科書の説明を終わる。

- ◇委員長 東京書籍は、思考ツールが特徴的である。他社はどうか。
- ◇調査員 他社も多かれ少なかれ扱っている。東京書籍は、「この問いにはこの思考ツール」となっており、学びがスムーズである。
- ◇委員長 政治的教養の育成について、東京書籍以外に特徴は無かったか。
- ◇調査員 どこも似ている。「18歳」という表現を使っている点で、東京書籍に特徴があると考えた。
- ◇委員 編集の仕方は、どの科目も教科書会社で一律である。それぞれの分野で、特徴がある会社が異なるが、どうか。
- ◇調査員 各社で得意分野があると考えられる。
- ◇委員 知識・技能について、巻末に用語集を整理しているものもある。二次元コードで読み取るものもある。そのように構成されているという捉えで良いか。
- ◇調査員 デジタルコンテンツが増え、家で使うことも考えられる。

【社会（地図）】

- ◇委員長 地図の調査研究報告をお願いします。
- ◇調査員 東京書籍の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに、特に特徴といえるものや、良いと考えられる番号を読み上げる。
第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑤
第4の観点⑥、第5の観点⑦
特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第2の観点と第4の観点である。
帝国書院について。
第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑤
第4の観点⑥、第5の観点⑦
特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は第1の観点、第3の観点、第4の観点である。
以上のような調査結果を踏まえ、東京書籍、帝国書院の両方について、特徴的な点や良いと思われる点を説明する。
東京書籍について説明する。この教科書では特に第2の観点と、第4の観点を取り上げる。

第2の観点「思考力・判断力・表現力等の育成」について。地図134ページ。東京書籍の地図では「この地図帳で世界旅行をするミツバチーズ」というキャラクターを設定しており、このページでは「図6と7を比べて、夏と冬の気温差が大きい地域と小さい地域を探そう」「1月に日本海側で降水量が多くなる仕組みを説明しよう」と問いを出している。このキャラクターはほとんどのページに登場し、全部で157の問いを出しており、生徒が親しみを感じながら、地図の活用や、地理の学習を深めるためのヒントとして、問いについて考えたり、考えた結果を表現したりすることができるようになっている。

第4の観点「内容の構成・配列・分量」について。東京書籍の地図は、インデックスを、9ページから66ページまでの「世界」、67ページから155ページまでの「日本」、156ページから160ページまでの「統計」、161ページから169ページの「さくいん」に分け、どこにどの情報が掲載されているか、分かりやすい工夫がなされている。また、「世界」は州ごとに、「日本」は地方ごとにさらに細かく分類し、インデックスの色分けがなされており、地図帳を開く上で、目指す州や地域などを簡単に探すことができるようになっている。

帝国書院について説明する。この教科書では特に第1の観点、第3の観点、第4の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。地図6ページのオーストラリアの地図。この図は鳥観図といい、地形などを立体的に表しており、地形や景色を詳しく読み取ることができる。鳥観図が掲載されていることで、生徒にとっても分かりやすく、興味をもって学習を進めることができるようになっている。観点3にも書いてあるが、102ページを見ていただくと分かるように、資料のページにも鳥観図が多く掲載されている。鳥観図の数は、他発行者と比較しても、多くなっている。このことは、第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」についても同様のことがいえ、鳥観図が多数掲載することで、見ているだけでも楽しく、生徒にとって、分かりやすく、興味をもって学習を進めることができるようになっている。

第4の観点「内容の構成・配列・分量」について。帝国書院の地図は、インデックスを、5ページから22ページ、155ページから174ページまでの「資料」、23ページから80ページまでの「世界」、81ページから154ページまでの「日本」、175ページから183ページまでの「統計」、184ページから194ページの「さくいん」に分けて色分けし、どこにどの情報が掲載されているか、分かりやすい工夫がなされている。「世界」のインデックスは赤、「日本」のインデックスは「緑」と、東京書籍の地図と比較すると、シンプルでより分かりやすくなっている。また、総ページ数も198ページと、東京書籍の地図よりも、22ペ

ージ多く、その分、地図や資料が豊富に掲載されている。

以上で地図の説明を終わる。

- ◇調査員 インデックスについて。東京書籍、帝国書院、地図の活用についての資料が違いであらう。子供が活用する際、どちらがより適しているか。
- ◇調査員 授業は目的的に、それ以外では、子供たちが見たがるものであって欲しい。帝国書院の鳥観図は、子供たちをより惹きつける。
- ◇委員長 地図の活用する場面で子どもたちが楽しく学べるという点で、帝国書院のつくりの方が高い評価ができると感じた。
索引の項目数で差があるか。もし分かれば教えて欲しい。
- ◇調査員 数えていない。
- ◇委員 統計について、古くても大丈夫か。より新しいものが求められないのか。
- ◇調査員 授業者にとっては、新しい方が良い。
- ◇委員 古いことは問題ではないか。
- ◇調査員 授業では、新しいデータを用意するであろう。
- ◇委員 分かった。
- ◇委員長 地図と地理は同じ会社が良いか。
- ◇調査員 違ってても特に問題ない。
- ◇委員長 これから審議に移る。

(地理的分野)

東京書籍、第1の観点。「知識の定着と深化に効果が期待できる」とする。

帝国書院、日本文教出版も同様にする。

東京書籍、第5の観点。「色分けしており、現時の活動で着目すべきことに意識を向けさせることができる」とする。

帝国書院、第4の観点。「4種の思考ツール」とする。「思考を焦点化させる表現で章全体を通した問いを掲載しており」とする。

(歴史的分野)

東京書籍、第1の観点。「思考を喚起する表現で示しており」とする。第2の観点。「歴史の流れの『推移』、別のこととの『比較』、『出来事の相互の関連』『現代とのつながり』」を具体として入れる。「生徒は、どのような点に着目してどのように考えるか、科学的な思考を行うよう設定されている。章のまとめでは『歴史的な見方・考え方』に基づいて思考ツールを活用しながら考えを深めていく課題が示している。」とする。第5の観点。地理の表現と同じようにする。

(公民的分野)

東京書籍、第1の観点。「思考を喚起する表現で示しており、」とする。第2の観

点。思考ツールの具体名を入れる。第4の観点。「『S市の議員になって条例を作ろう』など社会参加を促す」とする。

(地図)

東京書籍、第2の観点。「157の問いを出し」とする。

帝国書院、第4の観点。「という実際の活用に即した分類を行っており、色分けして、シンプルで分かりやすく強調している」とする。第4の観点。「東京書籍よりも総ページ数が22ページ多く」とする。

◇委員 第3の観点。尾道がどういう位置に記載されているかという視点で「村上水軍」、「しまなみ海道」など、尾道の子供が親しみやすい内容を特徴として挙げることができると考え、比較した。

◇委員長 「身近な地図の情報の記載がある」を付け加える。

◇委員 第2の観点。「地図で発見」では。

◇委員長 「地図で発見」とする。

【道徳】

◇委員長 道徳の調査研究報告をお願いします。

◇調査員 東京書籍の総合的な所見の中で、それぞれの観点ごとに特に特徴といえるものやよいと考えられる番号を読み上げる。

第1の観点②、第2の観点③、第3の観点⑤

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第3の観点と第4の観点、第5の観点である。

教育出版について。

第1の観点①、第2の観点③、第3の観点⑤

第4の観点⑧、第5の観点⑨

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

光村図書について。

第1の観点①、第2の観点③、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

日本文教出版について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第1の観点と第2の観点である。

学研について。

第1の観点①、第2の観点④、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

あかつき教育図書について。

第1の観点①、第2の観点③、第3の観点⑥

第4の観点⑦、第5の観点⑩

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴は、第3の観点と第4の観点である。

日本教科書について。

第1の観点①、第2の観点③、第3の観点⑥

第4の観点⑧、第5の観点⑨

特に他の発行者と比べて優れていると考えられる特徴はなし。

特に他の発行者と比べて優れた特徴を有していると考えられる教科書3社、東京書籍、日本文教出版、あかつき教育図書の特徴について説明する。

東京書籍の教科書について、特に第3の観点と第4の観点、第5の観点を取り上げる。

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。2年生の教科書の92ページ。教材の終わりに「plus」を設け、探究の対話「P4C（ピーフォーシー）」や対話の流れ等を記載するなど多様な問題解決学習の課題設定や手法を示している。このようにさらに、生徒が考えを深め、それを安心して発言することができるような支援の工夫が見られる。

第4の観点「内容の構成・配列・分量」について。

1年生の教科書23ページから33ページ。いじめの問題をテーマとした、3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化している。特に22ページの「いじめにあたるのはどれだろう」という教材は、他社の読み物教材にはない、ビジュアル化した中学校の教室イラストを用いるなど生徒にとって考えやすいものになっている。

第5の観点「内容の表現・表記」について。

1年生の教科書73ページ。タイトルの下に二次元コードがある。これを読み込むと、「音声朗読」「ワークシート」「災害に関するVR映像」「他教科と防災に関するリンク」など多種多様な情報を手に入れたり、体験したりすることができる。こうしたデジタルコンテンツの充実は、他社と比較して特に優れた特徴であり、生

徒にとって興味関心が高まる工夫と言える。

第1、第2の観点についてはA3の一覧に示している通りである。東京書籍の教科書は、多様な問題解決学習の課題設定や手法、デジタルコンテンツの充実等による、生徒の興味関心を高める工夫が他と比較して特徴的だと言える。

日本文教出版の教科書について、第1の観点と第2の観点を取り上げる。

第1の観点「知識及び技能の習得」について。1年生の教科書の5ページ。各教材では、①気づく、②考える・議論する・深める、③見つめる・生かすの3つのステップで学びを深めるように構成されている。1年生だけでなく、全学年同じように構成されている。こうすることで学びの流れが分かりやすく、1時間の見通しをもって学習することができる。

第2の観点「思考力・判断力・表現力の育成」について。別冊「道徳ノート」。ノートには発問が書いておらず、学級や生徒の実態を踏まえ、授業に合わせて自由に記入欄を活用できる。自分の考えや友達の意見等を自由に書くこともでき、自分の考えをまとめたり振り返ったりしながら学習できる。さらに、巻末には「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」の欄が学期ごとに設けられており、印象的だった授業や成長の記録をしっかりと残し、重要な評価に活かすことができる。

このように日本文教出版の教科書は、3年間見通しをもちながら3つのステップで学習することができる。また、別冊「道徳ノート」を用いて、自らの考えをまとめたり振り返ったりすることはもちろん、学期ごとの長期的なスパンで成長を見取ることができるところが他社と比較して特徴的である。

あかつき教育図書の教科書について、第3の観点と第4の観点を取り上げる。

第3の観点「主体的に学習に取り組む工夫」について。1年生の教科書の90ページから93ページ。本教科書では、それぞれの学年に3か所「マイ・プラス」が設置されている。ここでは、役割演技や話し合いなどを取り入れて、生徒がいろいろな立場で想像したり、考えたりできるような問いが設定されている。授業を活発に、また円滑に進めることができるよう工夫されている。

第4の観点「内容の構成・配列・分量」について。3年生の教科書の目次。例えば、7、8章では、「いじめ問題」を、11、12章では、情報モラルという風に、現代的課題について重点的に学習を深められるようユニット化し、学年ごとに連続して複数の教材が設けられている。また、このユニットが3学年で展開されており、継続して学びを広げ、深められる構造になっている。

このようにあかつき教育図書の教科書は、問題解決的な学習、役割演技、体験的な学習等、多様な学習活動を実現するための工夫がなされている。また、いじめ問題をはじめとした現代的課題に向き合うためのユニットが、発達段階に合わせて配置

されていることが他社と比較して特徴的である。

以上で道徳の説明を終わる。

◇委員長 東京書籍、第3の観点。安心して発言できる工夫があるのか、ルールそのものが安心できる仕組みなのか。

◇調査員 P4Cなど、発言しにくい子が、ゲーム感覚で発言できることが特徴である。

◇委員長 活動そのものが安心できる仕組みのものであるということである。
別冊があるのは日本文教出版のみか。

◇調査員 そうである。以前は、発問もノートに書かれていたが、今回は無くなっており、現場の声が生かされている。

◇委員長 有効的な特徴であると捉えて良い。
巻末について「評価」と報告書にあるのは、子供自身の自己評価か、それとも、教師が行う評価か。

◇調査員 両方の意味がある。両方に役立つ。

◇委員長 ここで言う教師の評価は、個人内評価か。

◇調査員 そうである。

◇委員 日本文教出版と東京書籍。東京書籍の○が3つになっているが、要因は何か。

◇調査員 資料の豊富さ、子供の読みやすさ、二次元コードから読み取れるものの多さが特徴的である。範読やワークシートもそれに含まれる。二次元コードがかなり充実している。

◇委員 タブレットで読み込んだものを直接打ち込むこともできるか。

◇調査員 可能である。

◇委員長 日本文教出版を選定した場合、これまでの授業実践を基礎としながら、安定した授業が展開できると考える。東京書籍を選定した場合、これまでの授業をバージョンアップできるか。

◇調査員 授業のレベルアップが期待できると考える。

◇委員長 市内の授業の底上げにつながると良い。

◇調査員 道徳にもICTを活用した変化が求められている。

◇委員長 審議に移る。

東京書籍、第3の観点。「多様な問題解決学習の手法を設定しており、生徒が考えを深め、それを安心して交流できる工夫」とする。第4の観点。「問題を掘り下げて考えることができるものになっている」とする。第5の観点。冒頭「デジタルコンテンツが充実しており」とし、「多種多様な情報を活用したり、体験したりすることができ、生徒に興味関心をもたせる工夫がある」とする。

日本文教出版、第2の観点。「別冊道徳ノートは、学級や生徒の実態を踏まえて、

自由に記入できるものとなっている。」とする。「書くことができ、思考、判断、表現を行うことに活用できる」とする。「巻末の『道徳科で学んだことを振り返ってみよう』が学期ごとに設けられており、印象的だった授業や成長の経過を記録し、ポートフォリオ評価として活かすことができる。」とする。

- ◇委員長 東京書籍を選定することで、道徳の授業が次のレベルに向かうことを期待したい。
- ◇委員 東京書籍について。サブタイトルが子供に投げかけるものになっている。学年が上がるにつれて、より考えさせられるものになっている。日本文教出版の方が目次は分かりやすい。そういう違いはある。
- ◇委員長 東京書籍、第3の観点。「生徒の心に響く副題がある」を加える。
本日の審議は以上とする。事務局から連絡等があればお願いします。
- ◇事務局 次回連絡